

共生力

HP: <http://www3.ocn.ne.jp/~koryu/>

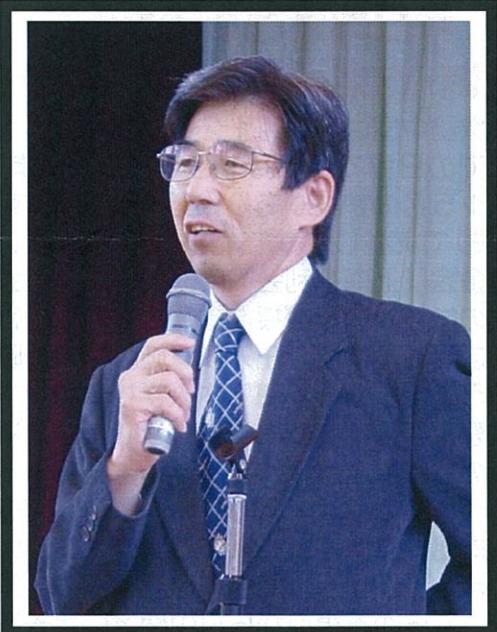
Tel: 055-269-6533 Fax: 055-269-6534

〒400-0031 山梨県甲府市丸の内2-32-16

甲府丸の内マンション302

発行人: 黒田文男

追悼 吉田一徳理事 ○～お疲れ様でした～



去る6月28日に、当財団（日本中国国際教育交流協会）業務執行理事の吉田一徳先生が、肺臓がんのためご逝去されました。享年67歳という「まさに早すぎる死」を、むかえられました。生前吉田一徳先生と様々な場面で関わりを持った全ての人々が、その訃報に驚き、その死を惜しんだことと思います。吉田一徳先生は、誰にでも温かく心を込めて接するとともに、何事にも誠心誠意、真面目に、一生懸命取り組みを行いました。その人柄の素晴らしさについて、吉田一徳先生を知る全ての人々が、共通した思いを抱いていたことだと思います。学校教育に、組合活動に、日中国際教育交流に、大きな足跡記してくれた吉田一徳先生を偲ぶとともに、大きな感謝の誠を捧げたいと思います。「吉田一徳先生、ありがとうございました。」「本当に、お疲れ様でした。」「心よりご冥福をお祈りいたします。」

吉田一徳先生略歴

1947・1	東京都文京区にて出生
1969・3	立教大学卒業
1969・4	台東区立浅草小学校勤務
1976・4	世田谷区立等々力小学校勤務
1986・4	世田谷区立深沢小学校勤務
1996・4	世田谷区教職員組合執行委員長
1997・4	世田谷区立八幡小学校勤務
2001・4	東京教組 書記長
2004・4	東京教組 執行委員長 日本中国国際教育交流協会評議員 (公益法人化のための特任評議員)
2007・3	東京教組執行委員長 退任
2010・4	日本中国国際教育交流協会常務理事
2010・8	(公益法人化に伴い) 業務執行理事
2014・6・28	逝去 (67歳)

「吉田一徳さんを偲ぶ会」が しめやかに行われました

10月4日(土)に、ホテルフロラシオン青山において東京都公立学校教職員組合・日本中国国際教育交流協会の共催する「吉田一徳さんを偲ぶ会」が催されました。日本教職員組合加藤良輔執行委員長、日政連神本美恵子・那谷屋正義両参議院議員をはじめ約100名もの関係者が集まりました。開会に先立って行われた出席者全員による黙祷の後、主催者を代表して黒田文男理事長が追悼の挨拶を行いました。引き続き代表者による「追悼の言葉」が、さらに「宋慶齡基金会」「易県教育局」からの追悼メッセージの紹介と宋慶齡基金会作成の「メモリアルフォト=訪中時の吉田一徳先生」が上映されました。吉田一徳先生を偲んでのスピーチの後、最後にご家族を代表して吉田直子様よりのご挨拶を頂きました。参加者一同、吉田一徳先生の人柄を偲び、業績を確認し、また悲しみを新たにしました。「吉田一徳さんを偲ぶ会」は、東京教組土井 彰執行委員長のお礼の言葉をもって閉じられました。

「吉田一徳さんを偲ぶ会」開会にあたっての 日中国際教育交流協会黒田代表理事の言葉

「本日は、本年6月28日にすい臓がんで急逝されました、吉田さんの「偲ぶ会」にご臨席賜り、主催者一人としまして、厚くお礼を申し上げます。この後、吉田さんとご縁の深かった方々のお集まりですので、思い出やエピソードを話していただけるものと思います。それに先立ちまして、私から一言、吉田さんのお人柄につきまして、お話しさせていただきます。私との交流は、吉田さんが日中国際教育交流協会の業務執行理事に就任され、始まりました。中国には、幾度となく同行していただきました。中国での相手方への配慮、私をたてる姿勢、何もかも自然でありました。一言でいえば、誠実な人でした。

月日が経過したある日、携帯に電話しましたところ、奥様が応答されました。私は、体調が優れない

と察しました。しかし、その後メールが届きました。まずは、電話に応答できなかった失礼を述べられ、最後に「今、苦しい」という文言がありました。吉田さんが「苦しい」と言われる。大変苦しかったと思います。それでもメールを送ってこられる。何と「律儀、誠実」であろうか。淡々と、誰に対しても驕らず、誠実に接せられてこられた人生でありました。人柄が良いことはもちろんですが、無私の心が成せる生き方でした。「野心・邪心・私心」のない人がありました。「日中国際教育交流協会」は、吉田さんの支えで今日までまいりました。吉田さん、ありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

本日は、天国で良き友人たちの声を聴いてください。「偲ぶ会」の主催者の一人として初めにごあいさつさせていただきました。本日は、心よりの哀悼の意が表される会になることを願っております。」

中国宋慶齡基金會・易県教育部よりの弔文

公益財團法人日本中国国際教育交流協会

惊悉吉田一徳业务执行理事不幸逝世，我会全体同仁深感痛惜。吉田先生生前为促进中日两国人民间的友好、推动两国民间交流交往作出了积极的贡献。我们为失去这样一位热心中日友好事业的老朋友感到十分悲痛。

谨以此函表示沉痛哀悼，并通过贵会向吉田一徳先生家人转达我们的哀思与问候。

中国宋慶齡基金會副主席 井頓泉

二〇一四年七月十日

弔文

悲報に接し、驚いて悲しみにたえません。この手紙で、吉田一徳先生のご逝去を悼み、また、ご遺族の方々のお悲しみはいかばかりかとお察しいたします

日本中国国際教育交流協会の業務執行理事になさっていた吉田一徳先生が生前、中日両国民衆の友好と民間交流事業に力を尽くしました。中国宋慶齡基金會を通して、2009年から、日本中国国際教育交流協会は中国河北省易県で音楽教師の研修会を五回行ってきて、易県で中日教育交流も毎年行いまして、易県の音楽教師代表団も二回日本へ招待してくださいました。これらの活動は順調に完成して来たのは、吉田先生の苦労と知恵は不可欠だと言えます。再び易県の教育事業、またに両国間の教育交流に心力を寄与した吉田先生敬意を表しており、心からご冥福をお祈りいたします。

2014年7月11日

易県教育局

員家庭（現職6・退職1）をホストファミリーとして行いました。今年度は、留学生側からの強い要望を受けて、募集人員を7名に増やしました。また、3日目の午前中に、笛吹市内の地域活動団体笛サークルの小学生と交流会を行ったり、退職教職員によって行われている「NPO まなびの広場ふえふき」の先生方に日本の折り紙体験を実施していただきました。最終日のまとめの会での発言の中にも、終了後提出してもらった報告書や感想文を読んでも、このホームステイの取り組みが、留学生・ホストファミリーのどちらにとっても交流・理解・信頼の進展に大いに役立ったことが確認できました。



今日的意義を踏まえて 上海・南京への第16次訪中団

第16次訪中団は、9月12日（金）から17日（水）までの日程で、上海市を中心に行いました。各県より15名の参加があり総勢19名（含む：通訳・添乗員）で実施しました。中国側の受け入れは、宋慶齡基金會（上海福利会）で、宋慶齡基金會の小中学校での学校視察及び授業参観・交流会を行うことができました。また、在外教育施設での国際理解教育という観点から、上海日本人学校の小・中・高等学校視察及び授業参観も実施しました。上海市及び南京市の見学は、近現代における中国と日本との交流という観点から、孫文（南京中山陵にて献花）・宋慶齡・魯迅・内山完造に係わる史跡等について研鑽を深めました。また、南京虐殺記念館での研修においては、あらゆる視点から日中関係の過去をしっかりととらえるという意味で、大いに意義がありました。さらには、犠牲者への献花も行い、日中関係発展の過去から未来への決意を示すこともできたと思います。



第3回ホームステイin山梨大成功

『田中一郎記念奨学基金』の事業として。一昨年度から行ってきた中国人留学生のホームステイ事業を今年度も実施しました。第3回ホームステイは、8月8日から10日までの3日間で、山梨県の教職

